男女共同参画社会の実現に向けて

らぷらす

Vol. 84
Jul 2022
Take Free

Interview

自分で選んじゃダメ？そんなことないんだよ

バービー（フォーリンラブ）

聞き手：小川たまか

P.6
らぷらす事業紹介
セクシュアル・マイノリティフォーラム

Setagaya Information
多様な生き方を認め合い、自分らしく暮らせる
せたがやを目指して

P.7
私の居場所 ～らぷらす登録団体紹介～
フリー栄養士会ぱせり

らぷらす施設紹介

この情報誌の表紙には、目の不自由な方などへの情報提供に役立てられている音声コードを印刷しています。
「音声コード」は紙に掲載された印刷情報をデジタル情報に変えたシンボルで、約2cm角の中に日本語（漢字かな交じり）で約800文字の情報を記録することができます。専用の活字文字読み上げ装置を使用して音声で内容を聞き取ることができます。「音声コード」の横には、視覚障害の方が触覚によりコードの位置を把握できるよう、切り欠きを入れています。

音声コード

らぷらす Vol.84 Jul 2022
編集・発行：世田谷区生活文化政策部 人権・男女共同参画課　2022年7月発行　世田谷区広報印刷物登録番号／第2092号
〒156-0043 東京都世田谷区松原6-3-5　TEL 03-6304-3453　FAX 03-6304-3710　URL https://www.city.setagaya.lg.jp/
制作：株式会社エイティワン

私の居場所 ～らぷらす登録団体紹介～

「フリー栄養士会ぱせり」出沢その子さん

Sonoko Dezawa

栄養士・管理栄養士12人が集まり世田谷区を中心に活動する「フリー栄養士会ぱせり」。高齢者のための骨粗しょう症予防カルシウムアップ教室、小学校・児童館での親子向け料理教室、管理栄養士/医学博士井上正子さんをお迎えする年1回開催の講演会、豆類組合及び東京医療保健大学と連携した豆類に特化した料理教室などを通し、地域に“食と栄養”を届けることで人々の健全な生活を支えようと取り組んでいる。

代表の出沢その子さんにお話を聞きました。

私が栄養士になった頃、ほとんどの女性は結婚したら家庭に入ることがまだまだ求められていました。結婚当時、私は病院の栄養士として働いていましたが、夜勤のあるタフな仕事や“女性は家庭に入るのが当たり前”という社会通念から、働き続けたいという思いは強くありながらも仕事と家庭の両立は現実的に難しくその選択はできませんでした。今は以前と比べ様々な両立支援が充実し女性が働き続けられる環境が整備されていて、現代の若い女性は非常に恵まれていると感じます。

私は結婚してから夫の転勤や単身赴任で生活が変化しつつ子育てする人生を送る中、家庭のことで精一杯、働くことのイメージはいつしか消えていました。

今から50年程前に世田谷区に引っ越してきてから時々、保健所での勉強会に参加していくうちに「栄養士としての専門性を社会で活かしてみたい」、「保健所と一緒に何かできることはないだろうか」という同じ思いを共有できる仲間ができ、その仲間たちと平成14年に立ち上げたのが「フリー栄養士会ぱせり」です。メンバーは時代と共に入れ替わりながらも、これまでそれぞれの取柄を活かし協力し合いながら約20年間続けてきました。

最近、老いや病気などで家事ができなくなる仲間もいる中で感じるのは、男性が家事スキルを持つことの大切さです。伴侶に何かあった時、自立して家事ができるといいですよね。私たちが実施した料理教室に参加した男性の中には、その後男性対象の料理教室を開いた人もいます。男性が家事をすることはリスク回避や夫婦の互いの理解につながるのではないでしょうか。

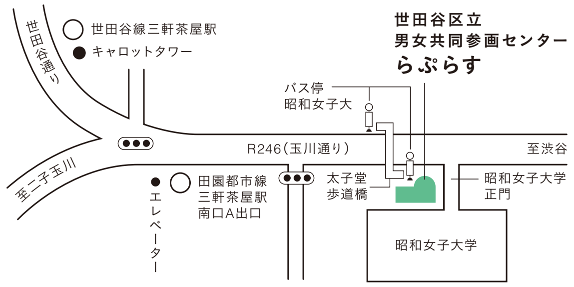
私が栄養士になったきっかけは、母が身体の弱い人で入退院を繰り返していたのを若い頃経験し、人間にとって健康が基本だとしみじみ感じたことです。これからも仲間と共に“食と栄養”を通して地域の役に立ちながら「ぱせり」が育っていくといいなと思っています。

https://2002paseri.jimdofree.com/

らぷらすは、男女共同参画社会実現のための拠点施設です

世田谷区立男女共同参画センターらぷらす

さまざまな講座・イベントを開催しているほか、生き方や働き方などに関する電話や面接での相談も充実しています。3階情報・交流コーナーは、予約なしで打合せや読書などに使えるスペースで、無料Wi-Fiも整備されています。



電車：東急田園都市線・世田谷線「三軒茶屋」駅下車徒歩7分
バス：東急バス・小田急バス「昭和女子大」下車
小田急バス（駒沢陸橋～北沢タウンホール）「三軒茶屋」下車
※駐輪場の利用をご希望される場合はらぷらすまでお問合せください

〒145-0004 東京都世田谷区太子堂1-12-40
グレート王寿ビル3～5階（受付3階）
TEL 03-6450-8510　FAX 03-6450-8511
URL http://www.laplace-setagaya.net/

らぷらすHP

Facebook

Twitter

世田谷区
SETAGAYA CITY

世田谷区HP
テーマから探す → 施設・公園・けやきネット → 暮らし・生活関連施設 → 男女共同参画センターらぷらす

Interview
Barbie

お笑い芸人として活躍する一方で、ウェブ上での連載をまとめた書籍『本音の置き場所』（講談社）が大きな共感をもって受け止められているバービーさん。その理由は、「自分のカラダ」について包み隠さず楽しく、それでいて誠実に綴るスタイルにあるようです。YouTubeやインスタグラムなど、多様な場所で情報発信を続けるバービーさんに、「性」についてのお話を聞きました。

自分で選んじゃダメ？そんなことないんだよ

バービー（フォーリンラブ）

Profile
お笑い芸人。北海道出身。2007年、相方のハジメとお笑いコンビ「フォーリンラブ」を結成。TBS「ひるおび！」のコメンテーターや、TBSラジオ「バービーとおしんり研究所」のパーソナリティを務めるほか、生まれ故郷の町おこしにも尽力。YouTube「バービーちゃんねる」では、最新美容や性についてのトピックが話題となり、現在の登録者数は25万人を超える。またFRaU WEBにて連載中のエッセイをまとめた著書「本音の置き場所」（講談社）を出版。自らプロデュースしたピーチ・ジョンとのコラボ下着の発売や、双方向コミュニケーション型ECサイト「◯バ（仮）」にてシルエットをキレイに見せる太ベルトの発売を開始するなど、多岐にわたり活動の幅を広げている。

Twitter https://twitter.com/Barbie_Babiro
Instagram https://www.instagram.com/fallin.love.barbie/
YouTube「バービーちゃんねる」 https://m.youtube.com/c/barbie0126

ご自身のYouTubeで性に関する話などさまざまな発信をされています。きっかけを教えてください。

YouTubeではテレビではできないことをやりたいと思っていました。ふだん当たり前に触れているのに、なかなか見えてこない情報を、私のわかる範囲でよかったら発信したいというのがあって。最初に思い浮かんだのが、これから生理が始まるかもしれない世代に向けての発信でした。ナプキンの付け方も知らない子が多いなという印象があって、結構軽いノリでやったのが始まりでした。

あの生理の動画が2年ほど前ですよね。

そうですね。今ほど生理に関する発信がメディアで見られない頃だったから、当初は若干大丈夫かなと心配していました。「汚い話をするんじゃないよ」と叩かれたりするかと思っていたけれど、「自分の知らない知識を知れました」って反応が多くて、やって良かったなと。シングルファーザーの家庭のお子さん、お父さん双方から「聞きづらかった・教えづらかったから知れて良かった」という声も。動画のコメント欄では、「もうすぐ生理が来るかもしれず不安」と書き込む女の子たちにお姉さんたちが教えてあげたりとか、面白い感じになっていましたね。

2〜3年前とは空気が変わったと思われますか？

だいぶ変わりました。ユニ・チャームさんが「#NoBagForMe」のキャンペーン（※）を始めたりして、もっと生理について語っても良くない？って雰囲気ができて。アイドルも含めていろんな人が普通に生理っていう単語を言えるような空気感になってきたのはこの数年だと思います。女性の演者同士でも、そういう話をすることがあまりなかったんです。知り合いの芸能人の方が、以前はたとえば温泉ロケで生理中だから「今日は足しか浸かりたくありません」って言っても「いやいや、あり得ないでしょ」って感じだったけれど、最近だと「生理なので足だけ浸かります」が許される空気になってきたって言っていました。

※2019年6月にユニ・チャーム社が生理用品ブランド「ソフィ」を通して始めたキャンペーン。生理をタブーにせず語れるトピックにする試み。

YouTubeでは、初潮を迎えたときに1か月ぐらいお母さんに話せなかったとおっしゃっていました。

細かい気持ちは忘れてしまいましたけど、恥ずかしかったんでしょうね。私は生理が来たのがとても早かったっていうのもあると思います。ただ私は末っ子で、少し大きくなってもお母さんと一緒にトイレの個室に入っていたんです。そこでナプキンの実物や取り替える方法は何回も見ていたので、こうするものなんだっていう知識はありました。お姉ちゃんも2人いたし、うちはお父さんが痔で、お父さんもナプキンを使う。「あてがう」ものだっていうことで、全員が使っていましたね。

子どもの頃に性教育ってありましたか？

全然覚えていないですね。なかったと思う。理科

Tamaka Ogawa
小川たまか
（聞き手＆執筆）

Profile
ライター。東京都出身。2008年に編集プロダクションを起ち上げ取締役を務めたのち、2018年からフリーライターに。性暴力、教育、ジェンダー問題などを取材。著書に『「ほとんどない」ことにされている側から見た社会の話を。』（タバブックス）、『告発と呼ばれるものの周辺で』（亜紀書房）

の授業でおしべとめしべとか、保健体育で卵子と精子がとか、男子には夢精があって……っていうのを教科書で見たのは覚えてます。でも特別な授業があったかっていうとなかったかな。

小学校低学年の頃に、お友達がお母さんから何か教わったらしくて「大人はこういうことをするらしいよ。子どもができるんだよ」って黒板に書いて教えてくれたことがありました。でもそのぐらい。中学や高校になってからも、友達とそういう話をすることはあんまりなかったですね。たまに、誰々が初体験をしたらしいよ、みたいな噂を聞くぐらいで。

当時を振り返って「こういう性教育を受けておきたかったな」と思うことはありますか？

私たちぐらいの時代だと、ほとんどAV（アダルトビデオ）が教科書だと思っているような節がありますよね。エロスの視点での性はみんななんとなく知っていたけれど、思いやりとか愛情とか、そこが欠落した情報だけ出ているというのは感じていました。たとえば今だったら、どうしてプライベートゾーンを触っちゃダメなのかとか。相手を思いやって自分の体を大事にして、というところを教えてくれる人がいたら良かったなと思いました。

「自分の体も他の人の体も大切なもの」と教える教育は、昔はあまりなかったですよね。

逆とまでいかなくても、まったくなかった気がします。あふれている性に関する情報も、なんかこう、ねえ。女性がセクシュアルなものとして扱われているものばかりで。女性が差し出されているような感覚の表現とか作品はたくさんあったかもしれないけれど、女性目線のものはあまりなかったし、男女が対等に求め合っているものを見させられてはいない気がします。

生理についての意識が変わってきたように、性的同意など性に関する意識が変わった雰囲気は感じますか？

う〜ん、どうでしょう。セクハラの意識に関してはかなり変わってきていると思います。何がセクハラにあたるかというラインが。それから、ブルゾンちえみちゃん（※）とかの強い女性像を演じるネタが受け始めてきた頃に、容姿をいじるかいじらないかのラインのところで芸人さんたちは揺れ動いていたと思います。

※元お笑い芸人。2020年3月に芸人を引退し、現在は「藤原しおり」としてタレント活動をしている。

お笑いの中でのいじりはアリなのかについて、確かにここ数年議論が続いているように思います。

お笑い第七世代のような新しい世代になってくると、まったくそういうのをしません宣言している人もいます。大食いしません、ツラいことはしませんと表明している。いろいろな人がいてすごい振れ幅だと思います。年々、何がハラスメントかのラインが変わってきているし、かつ世代的にもグラデーションがあると思います。

時と場所で笑えるものって変わるので、芸人さんはそこが大変だろうなと思います。

そうですね。さらに今は、どの媒体で何をやっても拡散性があるから、芸人さんはかなり窮屈な思いをしているように思います。たとえばバラエティー番組の中の雰囲気でやったことが、なんでも文字起こしされてネットニュースになる。表情や動作、音声込みで笑えていたものが、文字だけになると印象が変わりますよね。

バービーさんはエッセイが好評ですが、ご結婚相手の「つーたん」さんもお二人の出会いや付き合うまでなどを連載で綴ってらっしゃいます。一般人の「つーたん」さんがインスタグラムのダイレクトメッセージをバービーさんに送って……という始まりが面白いです。

アンサーエッセイを書いてくださいと言われているんですけれど、書いたらつーたんの読者さんが怒るかもしれない（笑）。彼から教えられたことはたくさんあって、私は「男性ってどうせ、したいだけでしょ」と思ってたところがあるんですね。お互いに体目的なら、それでWin-Winでしょって。

でも彼は「男性はみんなやりたいんでしょ」って思われるのは嫌って。むしろ彼から「体が目的なの？」と言われる状況でした。男性もいろいろなんだなと、フラットな目線を教えてもらった気がします。

他にも、イケメンとか容姿をもてはやされてもうれしい訳ではないとか、その感覚を知らなかったので新鮮だったところはたくさんあります。

女性だからこう、男性だからこう、というステレオタイプをいったん見直そうという時代になっている気がしますね。

インスタグラムとツイッターでアンケートを取ったことがあるんですよ。女性に対して「パートナーに高収入を求めますか？」という内容で。もともと「お金がないと男としてみられていないんじゃないかと思う」という男性のコメントを見て、私はそんなことないって言いたくてアンケートしたんですね。

でも結果的には女性の8割が「求める」と答えて、それが私はショックで。そこから熱い長文のダイレクトメッセージが女性たちからたくさん届きました。イエスって答えたけど本当はイエスなんて言いたくない、っていう声です。

女性も稼ぎたいけれど、社会的に稼げなくなっているとか、女性は妊娠出産するから、その期間だけは補填してくれる人がいたらいいとか。実際細かく聞いていくと、ただただお金が欲しいって人が8割というわけではなかったんです。もちろん中には「働けないもん」って人もいましたが。

女性側にも収入なんて気にしないと言いたいけれど……という複雑な気持ちがあったと。

そのときに、私はきれいごとだけで見ていた部分があったかなあと思いました。男性が弱みを見せられないとか、結婚したらATMって思われるんじゃないかっていう不安とか、苦しんでいることをわからなかったし。一方で女性が働いても男性より賃金が少ないのを目の当たりにしていなかったから、世間知らずでした。

どっちの気持ちもわかる気がしますね。

女性の賃金の低さと男性の弱音の言いづらさは、表裏一体だなと思っています。男性側が背負っているもの、地位や責任を牛耳らないでおいてもらえたら、負担もお互いに分けられるんじゃないかな。信頼して、背負っているものを預けてくれるようになればいいなあと思います。

性や社会的性差への意識について今は本当に過渡期だと思います。バービーさんは今後、どんな社会になっていったらいいと思いますか？

私は性に関する価値観は人それぞれでいいと思うんです。でも最低限のところはちゃんとやってほしい。性犯罪についてと、経口中絶薬や緊急避妊薬の問題など女性の体に関する部分について国がちゃんと保障してくれるのかという点が気になっています。

中絶方法や避妊方法について、日本は諸外国に比べて遅れていると言われています。

そういうところが私は気になります。性犯罪もなくなってほしい。そういう点がきちんとしていたら、他はおおらかでいいと思うんです。性に関する表現や考え方の部分を同調圧力で押し込めるやり方は好きではないから、その点はおおらかに。でもせめて犯罪と権利の部分はどうにかしてほしい。政府や学会や、権威のあるところが動いてほしいと思います。

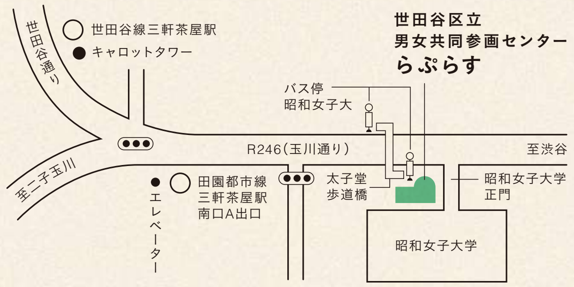
セクシュアル・マイノリティフォーラム

2022年９月11日（日）正午〜午後４時
会場：世田谷区立男女共同参画センターらぷらす

内　容	①講演会「恋愛ってしなきゃダメ?〜アロマンティック、アセクシュアルなどから考える関係性のかたち〜」　午後１時〜２時
	中村健（なかけん）さん（As Loopメンバー） 三宅大二郎さん（As Loopメンバー） ドラマ「恋せぬふたり」の考証チームメンバーのお二人に、基礎知識、自身の経験、多様な関係性等についてお話しいただきます。 ※アロマンティック：他者に対して恋愛感情を抱くことのないセクシュアリティ ※アセクシュアル：他者に対して性的欲求を抱くことのないセクシュアリティ
	②にじいろひろば交流スペース・特別版　午後２時〜３時
	③シネマ（入退場自由）　正午〜午後４時
	④ライブラリー展示　終日
	⑤プチマルシェ　正午〜午後4時
対　象	どなたでも
参加費	無料
申込み	講演会のみ事前申込制。8月1日（月）午前10時から、 ●電話 ●FAX ●メールにて受付開始。 保育は５か月〜就学前まで（先着順）
	①講座名 ②氏名（ニックネーム可） ③電話番号 ④保育の有無（希望の場合は子どもの名前・年齢・住所）をお伝えください
	TEL：03-6450-8510 / FAX：03-6450-8511 Mail：koza-laplace@kshowa.or.jp

問合せ	世田谷区立男女共同参画センターらぷらす TEL：03-6450-8510 / FAX：03-6450-8511 URL：http://www.laplace-setagaya.net/

〒154-0004 東京都世田谷区太子堂1-12-40
グレート王寿ビル3〜5階



電車：東急田園都市線・世田谷線「三軒茶屋」駅下車徒歩７分
バス：東急バス・小田急バス「昭和女子大」下車
小田急バス（駒沢陸橋〜北沢タウンホール）「三軒茶屋」下車
※駐輪場の利用をご希望される場合はらぷらすまでお問合せください

※新型コロナウイルスの感染拡大状況によって、
内容を変更または中止することがあります
※会場の感染対策についてはらぷらすHPをご確認ください
http://www.laplace-setagaya.net/news/142/

らぷらすHP

Setagaya Information

世田谷区からのお知らせ

多様な生き方を認め合い、自分らしく暮らせる せたがやをめざして

男女だけでなく多様な性の「心」と「からだ」の違いを理解しあい、相手に対する思いやりを持って生きていくことは、男女共同参画を進めるために、とても大事なことです。

令和4年6月、国は「女性版骨太の方針2022」を決定しました。重点的に取り組んでいく項目として、「男女間賃金格差への対応」や「性暴力・性犯罪対策」と並んで、「困難な問題を抱える女性への支援」や「女性の健康」なども挙げています。

世田谷区では、令和4年3月に「世田谷区第二次男女共同参画プラン後期計画」を策定しました。この計画では、性差や年代に合わせた健康づくりの推進や、「リプロダクティブ・ヘルス／ライツ」（性と生殖に関する健康と権利）なども盛り込んでいます。

ベージュ色の表紙が目印の
「世田谷区第二次男女共同参画プラン後期計画」

計画の詳細は区のホームページをご覧ください
https://www.city.setagaya.lg.jp/mokuji/kurashi/008/008/d00195525.html

アクションを起こしている女性も多いですね。

一方でそうできない女性もまだいると思っていて。私は結構、若いときから体のことについて自分から情報を取りにいっていたんですよね。けれど情報発信してみて、自分で調べない人もこんなにいるんだと気づき始めました。

性に関する情報を探すことをはしたないと思っている女性とか、自分で選んではダメなんじゃないかと思っている女性は、社会からの隠されたメッセージを受け取ってしまっている。自分の体を誰かが管理するものなんだという思い込みがなくなったらいいと思います。

自分で情報を探して、選択できるはずと。

自分で選んで決定してほしい。そういう考え方が増えていったら自然と、中絶薬がなかなか承認されないのはなぜ？って、もっと多くの人が気づくと思います。

ありがとうございました。「性」についての議論が過渡期の今、丁寧な議論が必要なはずなのに、強い言葉がひとり歩きしてしまうこともあります。バービーさんは柔軟な思考と言葉選びで、不安を感じるさまざまな立場の人に語りかけてくれているように感じました。

Book Review

『本音の置き場所』

バービー / 講談社 / 2020年

女性として生きてきた中で経験してきたジェンダーギャップや、自分の体のこと、東京と地方のことなどを、彼女らしいユーモアと知性でストレートに語る。自分の言葉で、あふれる本音を綴った等身大の姿は、芸人としての彼女の真骨頂でもあり、思わず共感せずにはいられない。潔く、魅力的に、誠実に、自分自身と社会を描いたウェブの人気連載を単行本化。

撮影：小山貢弘（Mitsuhiro Koyama）